

# プレスリリース

2025 年 4 月 21 日  
CNCI 三河湾ネットワーク株式会社

報道関係者各位

## 制作/撮影協力した地場産業活性化の ドキュメンタリー映画 「わたのまち、応答セヨ」全国公開

「進め! 電波少年」  
企画・プロデュース: 土屋敏男  
「過去はいつも新しく、未来はつねに懐かしい」写真家 森山大道  
監督・撮影・編集: 岩間玄



### わたのまち、応答セヨ

語り: 岸井ゆきの

三河湾ネットワーク株式会社（以下当社、本社：愛知県蒲郡市、代表取締役社長：堀井敦）が制作協力をした、蒲郡市の地場産業活性化に向けた「繊維の街」を取り上げたドキュメンタリー映画「わたのまち、応答セヨ」が2025 年 5 月 2 日（金）より全国の劇場で公開されます。

映画「わたのまち、応答セヨ」は、三河木綿の「モノ作り」の未来を照らす愛と情熱と熱狂の旅の記録。2024 年 2 月の制作発表を経て、地場産業活性化プロジェクトに寄り添い、長年にわたり蒲郡で繊維産業にかかわってきた方々、今奮闘している方々に密着して、その繊維産業の全容や魅力を伝えるドキュメンタリー映画。映画の舞台である蒲郡市の地場産業活性化にむけ、地元メディア企業である当社も制作・撮影に協力。

- 作品の詳細 : 別紙の通り
- 上映館及び公開日時 : 5 月 2 日（金） 新宿シネマカリテ、伏見ミリオン座、ユナイテッドシネマ豊橋 18 ほか  
全国映画館で上映（別紙の通り）
- 舞台挨拶 : 企画・プロデュース: 土屋敏男、 監督・撮影・編集: 岩間玄 の舞台挨拶を予定（下記の上映後）  
5 月 2 日（金） 東京・新宿シネマカリテ（10:00～）  
名古屋・伏見ミリオン座（14:15～）  
豊橋・ユナイテッドシネマ豊橋 18（18:30～）



三河湾ネットワーク  
キャラクター みかわん

【本件に関するお問い合わせ】  
三河湾ネットワーク株式会社  
総務・情報本部 総務グループ  
TEL 0533-69-7784

<会社概要>  
社名: 三河湾ネットワーク株式会社  
住所: 愛知県蒲郡市宮成町 3 番 10  
代表取締役社長: 堀井 敦  
事業内容: 有線テレビジョン放送事業、電気通信事業、  
放送番組の制作・販売

「モノ作り」の未来を照らす愛と情熱と熱狂の旅の記録

# わたのまち、応答セヨ

わたを紡いで蒲郡からロンドンへ  
映画が奇跡を起こす



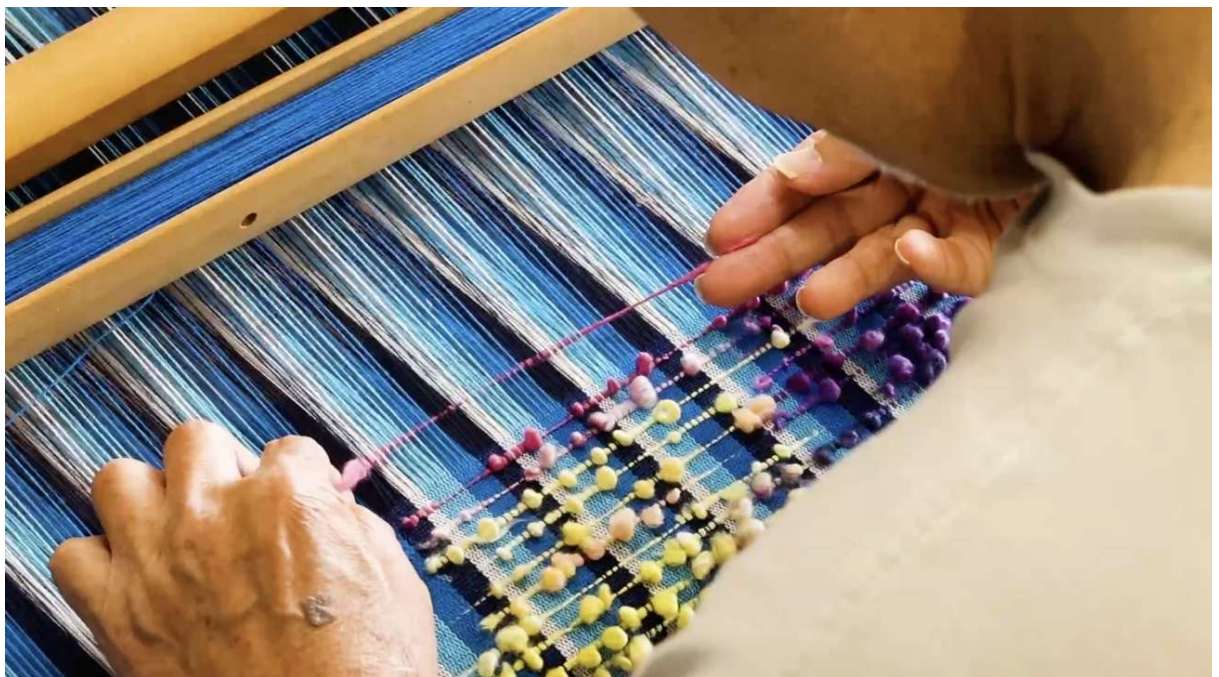


企画・プロデュース：土屋敏男 監督・撮影・編集：岩間玄 語り：岸井ゆきの  
映画が「繊維の街」に奇跡をもたらす

#### <イントロダクション>

トンネルを抜けるとそこには「わたのまち」がある…そう思い込んでいた。「街の繊維産業に光を当てる映画を作ってほしい」と市の依頼を受け、三河・蒲郡市を訪れた監督は途方に暮れた。1200 年前、日本に初めて綿花がもたらされた街。戦後、衣類が不足する中、織れば飛ぶように売れた空前の好景気で朝から晩まで街のあちこちで「ガチャン、ガチャン」と音が鳴り響いていた。しかし、かつての活気は失われ、織機の音も聞こえてこない。そこにあるのは、街の構造的な問題と人々の諦めムードだった。ここに描くべき希望があるのか？映画制作は難航を極める。そんな中、わたを種から育て紡ぐ 80 歳の職人と出会い、映画作りがその職人の背中を押し、街を揺さぶり、人々の眠っていた情熱が燃え上がっていく。そして、舞台は蒲郡からロンドンへ怒涛の如く展開し、日本のモノ作りの本気が、海を越えて人々の心を掴み、「繊維の街」に奇跡をもたらす。

2020 年、「過去はいつも新しく、未来はつねに懐かしい 写真家 森山大道」でデビュー、世界にインパクトを与えた映画監督・岩間玄が、「進め!電波少年」などのテレビ界の伝説的プロデューサー・土屋敏男とがっぷり四つに組んで贈るド迫力と感動のエンタメドキュメンタリー。映画制作に苦闘する二人はやがて「モノ作りとは何か？」という自らの覚悟をも試される展開を迎えていく。語りは『ケイコ 目を澄ませて』（22）で第 46 回日本アカデミー賞最優秀主演女優賞受賞ほか数々の賞を受賞した岸井ゆきの。これは決してこじんまりした産業映画ではない。それどころか、作り手も被写体も予想だにしない方向に転がり出し、予定調和を次々と破壊する再生と復活への狼煙の物語である。



企画・プロデュース：土屋敏男



1979年3月一橋大学社会学部卒。同年4月日本テレビ放送網入社。「元気が出るテレビ」「ウッチャンナンチャンのウリナリ！」などバラエティ番組を演出。「電波少年」シリーズではTプロデューサー・T部長として出演した。2017年に萩本欽一のドキュメンタリー映画『We Love Television?』を監督・企画・構成を務めた。2022年9月に日本テレビ放送網を退社し、同年にGontents 合同会社を設立。

<主な活動>

24時間生放送チャンネル「CS 電波少年的放送局」(2001年)

日本最初のテレビ局のインターネット事業「第2日本テレビ」(2005年)

地球を4年かけて走って世界一周「間寛平アースマラソン」(2008～2011年)

「岡本太郎『明日の神話』修復プロジェクト」

「NHK×日テレ 60 番勝負」 など

一般社団法人「1964 TOKYO VR」をライゾマティクス齋藤精一氏らと 2017 年設立。代表理事。

テレビ界の巨人、萩本欽一を追ったドキュメンタリー映画「We Love Television?」監督

2018年4月～2020年3月 東京大学大学院情報学環教育部 非常勤講師

2019年夏(7月～9月) 3D スキャナーを使った観客参加ライブエンタテインメント『NO BORDER』企画・演出

2021年1月 WOWOW で「電波少年 W～あなたのテレビの記憶を集めた～い」企画・演出・出演

2022年10月～ 愛知県豊田市ケーブルテレビ ひまわりネットワーク アドバイザー

2022年11月～2024年3月 WOWOW 新規事業アドバイザー

NPO 法人カマコン(鎌倉市を活性化する目的の団体) 理事





**監督：岩間玄**



1966 年、北海道生まれ。名古屋育ち。早稲田大学第一文学部・美術史学専修卒業。1991 年、日本テレビ放送網入社。以降 30 年以上に渡り、多くの番組の企画・演出・プロデュースを担当。「はじめてのおつかい」「高校生クイズ」「24 時間テレビ」「記憶のチカラ」「ヒットメーカー阿久悠物語」「スタジオジブリ物語」「時空警察」などを制作。

1996 年「路上の犬は何を見たか？ 写真家・森山大道 1996」の演出を皮切りに、スタジオジブリやレオナルド・ダ・ヴィンチ等のアート番組の制作に着手。バチカンのシスティーナ礼拝堂の修復をきっかけとした美術番組、「ルネサンス時空の旅人」シリーズ（芸術祭参加作品）で総監督を務める。

2003 年より岡本太郎の巨大壁画「明日の神話」復活プロジェクトにドキュメンタリー総監督として中心的に携わる。

JR 東海「そうだ京都、行こう」のキャンペーンシリーズ番組では松下奈緒・栗山千明らを起用、企画・構成・総監督を 10 年以上務めてきた。大和証券グループ、日本テレビホールディングス、ダイワハウスなどの企業コマーシャルやスペシャル番組も演出。

2014 年、当時一般にはほとんど無名の存在だったチームラボを見出し、東京初の大規模個展を企画・立案・制作・総合プロデュース。46 万人という日本科学未来館開館以来の史上最高動員記録を達成。チームラボ初の図録の執筆も担当する。また新江ノ島水族館でデジタルアートと水族館のコラボイベント「ナイトアクアリウム」を世界で初めて企画・制作し、メガヒットを記録。

ルーヴル、オルセー、エルミタージュ、ウフィッツィ、バチカン美術館など世界中のミュージアムを舞台にした数多くのドキュメンタリー記録番組を制作。2013 年には、東京国立博物館で「特別展：京都」の映像制作を演出総指揮。龍安寺の石庭を一年間 4 台の 4K カメラで撮影、実寸大で展示して ATP 特別賞を受賞。また番組だけではなく多くの美術展も企画・制作・総指揮。主なものでは「ディズニーアート展」「バンクシーって誰？展」「チームラボ踊る！アートと、学ぶ！未来の遊園地」「ルーヴル美術館展」「俺たちの国芳、わたしの国貞」「エルミタージュ美術館展」など。

2020 年、劇場用映画「過去はいつも新しく、未来はつねに懐かしい 写真家 森山大道」で映画監督デビュー。ストリートスナップの世界的名手の制作工程を映画化した。パリフォト・フィルムセクション、イギリス・レインダンス映画祭、韓国・全州国際映画祭、中国・西湖国際ドキュメンタリー映画祭、南仏・国際アートブック&フィルムフェス等で正式招待・ノミネート・受賞。米・英・仏・独・伊・中・韓など世界中でも商業公開される。

2023 年独立し、株式会社 ON THE SCENE を設立。映画・ジャンルの垣根を超えて活動。

現在は、ゲーム「ファイナルファンタジー」で知られる画家・天野喜孝の超大作制作にも密着し、2025 年以降劇場用ドキュメンタリー映画として全世界でロードショー公開する予定。

ATP 賞優秀賞・奨励賞・特別賞、ギャラクシー賞、テレビ記者賞、AMD デジタルコンテンツオブジイヤー賞、年間ベストテレビ作品賞、コロンバス国際映画祭優秀賞等、受賞。

主なメディア露出は、「美術手帖」「BRUTUS」「新潮」などでインタビュー・対談・寄稿・エッセイ執筆等。

## 岸井ゆきの（語り）



1992 年、神奈川県出身。

2009 年にドラマで俳優デビュー。映画初主演となった『おじいちゃん、死んじやったって。』（17）で第 39 回ヨコハマ映画祭最優秀新人賞を受賞。恋愛への執着が強いヒロインを好演した『愛がなんだ』（19）で第 11 回 TAMA 映画祭最優秀新進女優賞および第 43 回日本アカデミー賞新人賞を獲得。耳の不自由なプロボクサーを演じた『ケイコ 目を澄ませて』（22）では、第 46 回日本アカデミー賞最優秀主演女優賞受賞をはじめ、第 77 回毎日映画コンクール女優主演賞など様々な賞を受賞した。そのほかの主な出演作に『やがて海へと届く』（22）『神は見返りを求める』（22）『若き見知らぬ者たち』（24）などがある。



## 蒲郡市の繊維産業

今から 1200 年前、日本に初めて綿花がもたらされた三河地方。江戸時代には三河地方で綿の栽培と綿織物が盛んとなり、製品は江戸方面に送られ人気を博した。さらに西洋の技術を取り入れ、明治時代には「三河もめん」「三河縞」というブランド名で全国に知れ渡る。そして、戦後、衣類が不足する中、織れば飛ぶように売れる空前の好景気が訪れる。織機をガチャンと動かせば万の金が儲かる「ガチャ万景気」と言われ、朝から晩まで街のあちこちで「ガチャン、ガチャン」と音が鳴り響いていた。日本全国からモノと金と仕事を求めて人が押し寄せた。街は情熱と活気に溢れ、人々は希望に燃えていた。働き口はいくらでもあった。「ガチャ万景気」は形を変え、名を変え、しばらく続いた。バブル崩壊の波も乗り越えたが、2000 年、突然、好況神話は音を立てて崩れ落ちる。安価な海外生産品が出回り、対抗出来なくなった。ある者は工場を閉め、ある者は業界を去り、ある者は業態を変え、ある者は自らの命を絶った。

産元（産地問屋）・撚糸・織布・染色整理・縫製などが有機的に連携し、一次加工品から最終製品までを地域内で一貫して生産が可能で各工程での高い技術を背景に、多様なニーズに対応できる産地として知られている。市も繊維産業の再興を目指し市内の繊維業者の若手を集めて全国規模のファッションショーに出品するプロジェクトで動き出した。



企画・プロデュース：土屋敏男 監督・撮影・編集：岩間玄 語り：岸井ゆきの

Sponsored by 映画『わたのまち、応答セヨ』プロジェクト委員会

配給・宣伝：鈴木 JAYMEN TOKYO ©コンテンツ

(2024/日本映画/99 分/ビスタ/DCP/5.1ch)

公式 HP：watanomachi.com

公式 X(旧 Twitter)：@watanomachi

# 2025 年 5 月 2 日(金)より、 シネマカリテほか全国ロードショー

< 劇場営業に関するお問合せ >

鈴木（鈴木） shun.s@suzushow.co.jp / 090-2678-2088

< 宣伝/パブリシティに関するお問合せ >

紙・電波：サルーテ 和氣道子 mwake@salute.x0.com/070-1416-9871

WEB：田中舘紫恵子 shiekot@yahoo.co.jp/090-1044-7690



公開予定

『わたのまち、応答セヨ』 上映館

| 公 開 日              | 劇 場（地域）                                                                                                                            |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2025 年 5 月 2 日（金）  | 伏見ミリオン座 （愛知・名古屋市） ※<br>ユナイテッドシネマ豊橋 18 （愛知・豊橋市） ※<br>ユナイテッドシネマ岡崎 （愛知・岡崎市）<br>新宿シネマカリテ （東京・新宿区） ※<br>小山シネマロブレ （栃木・小山市）               |
| 2025 年 5 月 9 日（金）  | 東海市創造の杜交流館 （愛知・東海市）                                                                                                                |
| 2025 年 5 月 16 日（金） | アップリンク京都 （京都・京都市）<br>宇都宮ヒカリ座 （栃木・宇都宮市）                                                                                             |
| 未定                 | シアターキノ （北海道・札幌市）<br>川崎アートセンター （神奈川・川崎市）<br>横浜シネマ・ジャック&ベティ （神奈川・横浜市）<br>C I N E X （岐阜・岐阜市）<br>第七藝術劇場 （大阪・大阪市）<br>K B C シネマ （福岡・福岡市） |

※印：公開初日に、企画・プロデュース：土屋敏男、監督・撮影・編集：岩間玄 の舞台挨拶を予定